

⑤ 国立駅南口における用地交換

- 平成29（2017）年に、JR東日本が国立駅南口に商業ビル2棟を建設する計画の報道がありました。この計画に対して、市民やまちづくり推進団体から再考を望む声上がり市議会でも審議されました。
- 市とJR東日本は、国立駅周辺のまちづくりに資する国立駅南口の開発の考え方について協議を重ねた結果、下図のように用地交換することを、令和3（2021）年3月に合意しました。

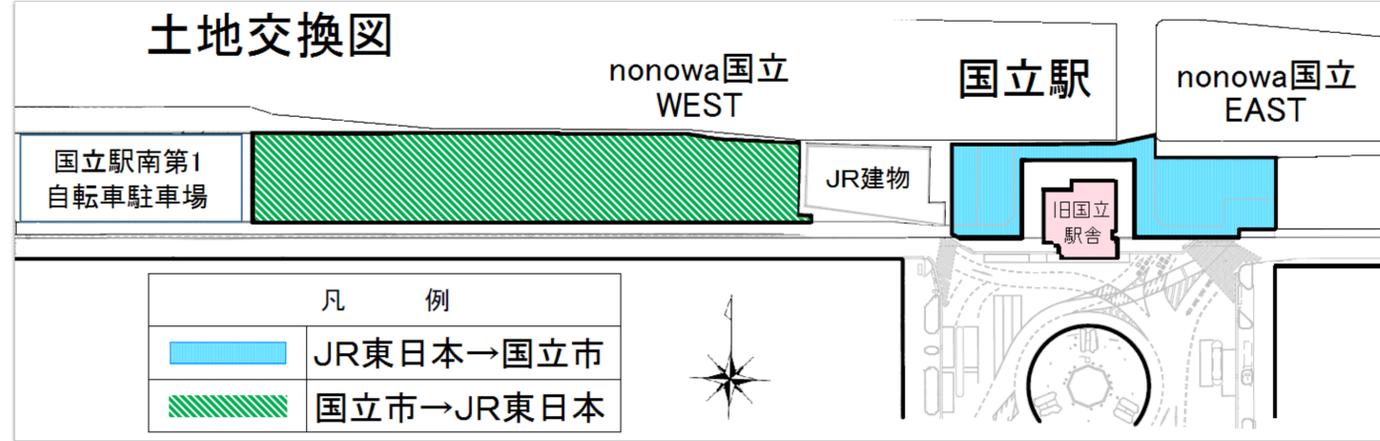


▲ 平成29(2017)年8月26日 読売新聞



▲ 令和3(2021)年3月13日 読売新聞

平成29(2017)年2月	国立市が、「国立駅南口複合公共施設整備基本計画」を策定
平成29(2017)年8月	JR東日本が、旧国立駅舎(当時は、再築予定)の東西に4階建ての商業ビルを計画しているとの新聞報道
平成30(2018)年2月	国立市まちづくり推進四団体協議会が、7,442筆の署名が付された「JR東日本株式会社による国立駅南口開発に関する陳情」を市議会に提出
平成30(2018)年4月	国立市とJR東日本は、協議を開始
令和3(2021)年3月	国立市とJR東日本は、「国立駅南口における用地交換にかかわる合意書」を締結
令和3(2021)年3月	国立市は、市議会建設環境委員会にて報告をするとともに、市報くにたち3月20日号の1面で用地交換を合意したことを掲載



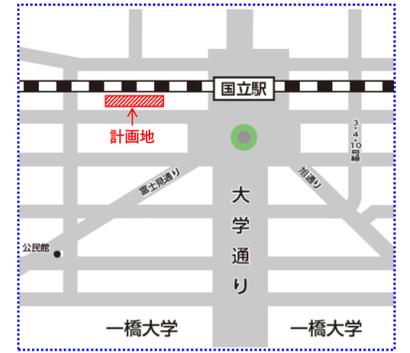
◀ 市報くにたち 令和3(2021)年3月20日号

○ 交換後の土地利活用の方針

※「国立駅南口における用地交換にかかわる合意書（令和3（2021）年3月）」より

- 市は、取得用地を歩行者空間の創出等のための広場空間として利活用します。
- JR東日本またはJR東日本の関連会社は、取得用地について、隣接する所有地と合わせて建物高さ31m以下の商業施設棟および賃貸住宅棟を計画します。
- 市は、子育て支援の公共機能を整備するために、賃貸住宅棟内の約700㎡を賃借します。
- 商業施設棟敷地内に、国立駅nonowa口改札に通じる連絡通路を新たに整備します。（現在の西連絡通路と東連絡通路は廃止します）

⑥ 国立駅南口子育て支援施設の整備



用地交換が実現すると、国立駅南口複合公共施設用地はJR東日本が利活用することになります。この場合は、JR東日本グループが計画している賃貸住宅の一部を市が賃借して子育て支援等の公共機能を整備します。

- 子ども向け公共施設の空白地帯であり、たくさんの方が集まりやすく学生の利用も多い国立駅の周辺には、子どもの遊べる場所が以前から望まれていました。
- 「国立駅南口複合公共施設整備基本計画」を継承する形で、子育て支援機能を持つ公共施設の整備に向けて、コンセプトや導入機能等について方向性をまとめた「国立駅南口子育て支援施設整備方針」を令和4（2022）年2月に策定しました。
- 市の重要施策である「幼児教育の推進」につながる拠点となることを目指します。

令和4（2022）年 2月	「国立駅南口子育て支援施設整備方針」を策定
3月～4月	「基本設計・実施設計 業務委託」の公募型プロポーザルによる事業者選定（24事業者からの提案あり）
5月～7月	市民参加型ワークショップ、授業形式ワークショップ等において市民、様々な団体等の意見を聞き、基本設計をまとめた
8月～	実施設計を開始
令和5（2023）年度	工事（予定）
令和6（2024）年度	開業（予定）

赤ちゃんから中高生までの子どもたち、
子どもと一緒に笑顔になりたい大人たち、
駅の近くだし、気軽に寄りたいたい

子どもステーションくにたち

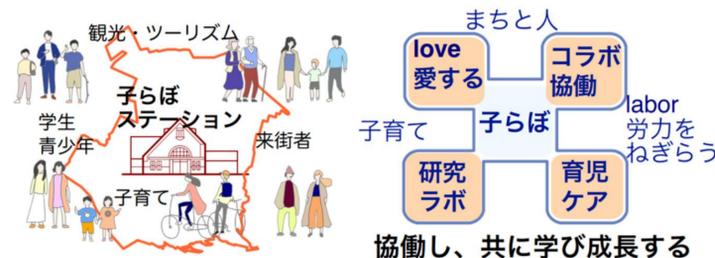
もっとくにたちが好き

子育ての手助けをしてもらえる、
学べる、集える、安心できる場所

国立のみみんなで育ち育てる「子らぼステーション」

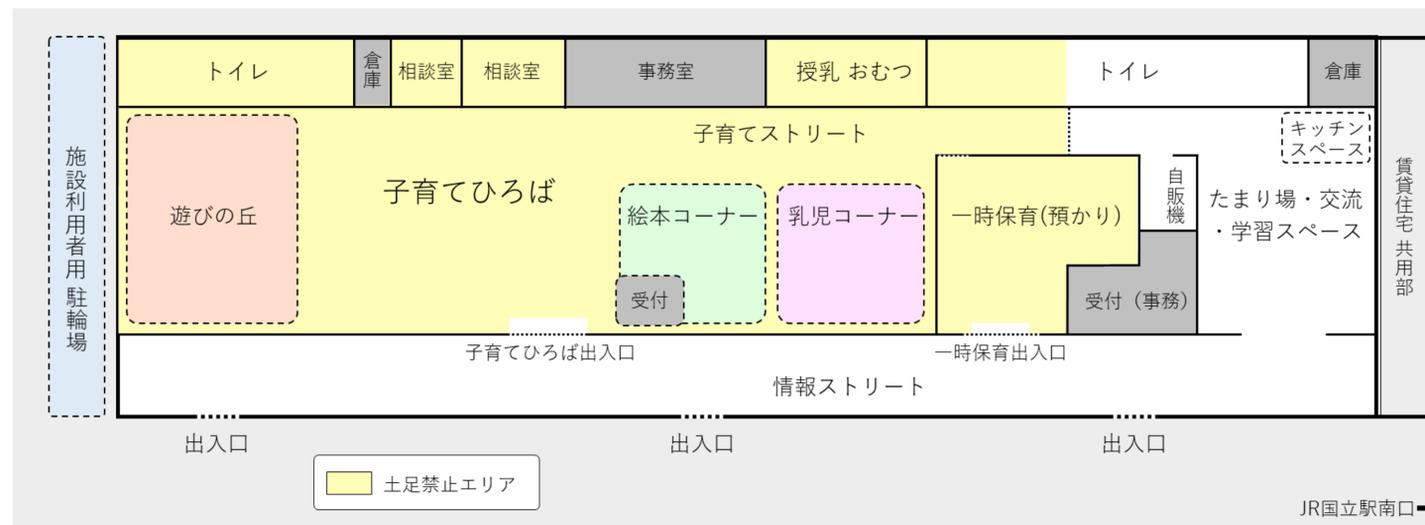
このまちで生まれ育った楽しい記憶を紡ぐ場所として、地域とつながり、多世代が関わる場所へ
国立市の掲げるソーシャル・インクルージョンの理念に基づき、誰もが使いやすい公共施設へ

- (1) 広場としての「子らぼステーション」
様々な世代が子育てをきっかけに集まる広場
- (2) みんなで「育ち、育てる」まちの駅
国立の未来を育て、自らも育てていく公共施設
- (3) 子どもの施設ならではの配慮
安全で見通しの良い明るい空間と多様な居場所
- (4) ランニングコスト削減と合理的な環境設計の両立
素材でシンプルな素材と優しい環境づくり



▲整備方針における施設コンセプト

▲基本設計のコンセプト



国立駅舎をモチーフとしたデザイン

